

会山行報告書

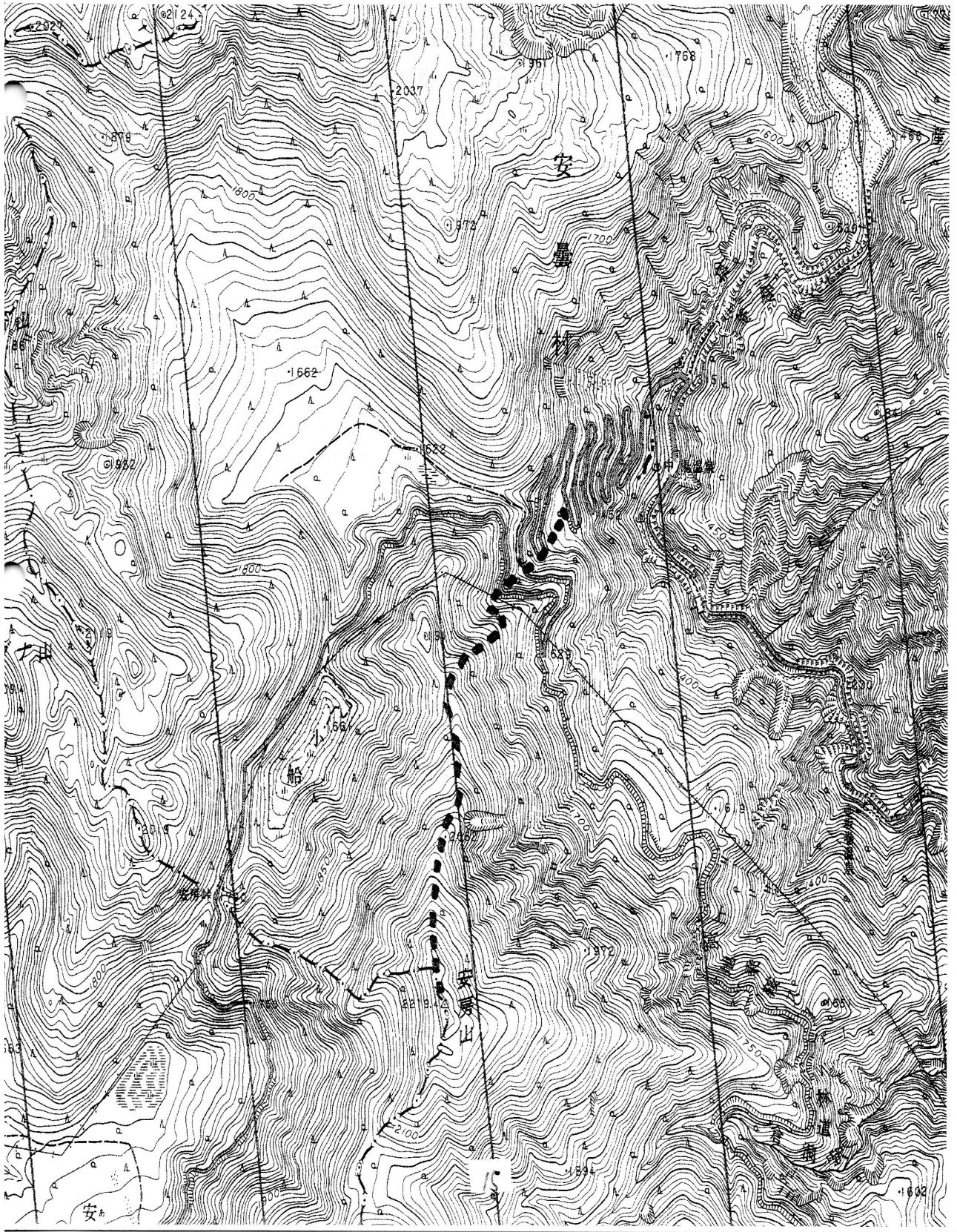
通算山行NO	No. 315A	報告者	三浦光治
年月日	2006年02月05日(日・風雪のち晴)	二万五千円=焼岳	
山名	北アルプス・安房山(2219.4m)北尾根		
体力度=4・やや大変 技術度=上り4・難しい、下り4・難しい 藪漕度=ない 道標=ない 展望度=焼岳・霞沢岳が素晴らしい 三角点=ある			
<h2>厳しい上りの後は快適滑降</h2>			
コースと タイム	中の湯温泉5:15—林道—沢—北尾根—2062m小ピーク—安房山10:00— 小ピーク—沢—中の湯12:00		
標高差	中の湯温泉約1500m～安房山2219m＝約719m		
参加者	CL・後藤隆徳(58)、加藤秀子(56)、齋藤富夫(56)、富永政則(54)、三浦光治(42)		

山スキーに憧れ、レイホーに入門。本格的な山スキー デビュー戦となりました。山行記録としては、まったく役に立ちませんが、初心者の苦労話として読んでください。

4:00 起床で、朝5:00の出発に備えました。少し腹ごしらえを済ませながら、外を覗くと、少し小雪が舞っていました。次第に緊張が高まってきます。後藤さんの、「さー行くぞー」の掛け声を合図に、中の湯温泉の裏手から登り始めます。真っ直ぐに歩く分には良かったのですが、なんと最初の階段状の土手が越えられない。先が思いやられる。これが苦行の始まりでした。

林道を2回跨いで、沢を登って行きます。尾根に取り付くまでの登りなので、結構な傾斜です。またまたトラブル!! 山スキー自体、今回が初めてと書いていい私。恥ずかしい話し、なんと、キックターンがうまくできない。切り返すたびに滑り落ちてしまうのです。体重の掛け方や、ストックワークまったくできていない。アリヤー、なんてこったい(>_<)。先輩たちには先行してもらい、しばらく一人で悪戦苦闘しながら、登ることになりました。あまりにも手間取ってしまったので、稜線間じかのところで、下ってもいいよという指示があったのですが、この際、練習と思い、時間の許す限り、登ることにしました。稜線近くまで、加藤さん、富永さんに待ってもらいました。

稜線に出たからは、傾斜も少し緩み、どうにかこうにかターンしながら、地道に行程を稼いでいきました。稜線では、起伏を縫うように登って行くのですが、トレースをつけてもらっているから、素直に歩けましたが、一人だととても分かりません。右手側は雪庇になっていましたから、確実なルートファインディングが求められるところです。

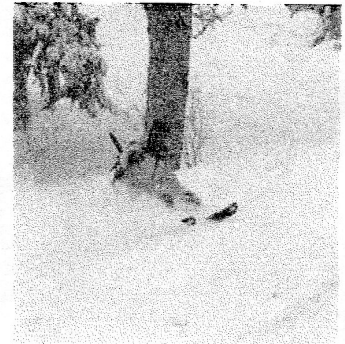


稜線に出たからは、風雪を直接受け、寒さも厳しさを増してきました。しばらくいくと、時折、先行している加藤さん、富永さんが見えました。後藤さん、斎藤さんは遥か彼方です。

ちょっと調子が出てきたところで、シールが浮き加減になっていました。ゴールはまったく分からず、とにかく歩き続けておりましたが、皆が休憩しているポイントが見え、どうにかこうにか、そこに辿り着いたころ、シールが完全に脱落してしまいました。途中、外れたのをきっかけに、雪を巻き込んでしまったようです。これ以上、進むのは無理と思っていたとき、後藤さんから下山の合図がありました。



下山は楽しい。文句ないパウダー。最初は恐る恐る滑っていたのですが、次第に慣れてきました。ずぼずぼと浮遊しながら滑っていきます。楽しいばかりではなく、ひやりとしたシーンもありました。雪崩というほどではありませんが、加藤さんが滑ったあとに、雪がずれ落ちていく場所があったり、斎藤さんが危うく木に激突しそうになったりと、やっぱり危険が潜んでいます。油断できません。



山行も終わろうとした頃、霞沢岳が姿を見せてくれました。

トレースは、あっという間に、風にかき消されていたのですが、エキスパートたちは、下山に際しても、まさしく山勘で下山ルートを判断していきます。途中、登山チームのカンジキのトレースを発見し、ここまで登ってきたのだと分かりました。何本かの楽しいスキーランもあっという間に終了し、無事下山することができました。

今回は、大変な足手まといとなってしまう、申し訳なく思っております。初の冬山体験、動き続けだったので、寒さは、さほど感じずにすんだのですが、稜線上の風雪は、さすがに厳しい。なんといっても厳冬期でしたから。

私は、安房山頂上を踏むことはできませんでしたが、今回の収穫は、ちゃんと練習しないと、やばいなということでした。登行技術がないと、大変です。一旦スキーを外すと、埋まってしまうし、再度、スキー装着するのも一苦勞なのです。滑るほうが、まだまだ楽しい。でもうまく登れるようになりたい。極上のパウダーがあるのだから。

下山後は、腹ペコでした。中の湯温泉では、昼ごはん、そこで打っている限定手

打ちそばがありましたので、迷わず注文です。ちょうど我々五人分で売り切れとなりました。うまかったー。下山後の食事は最高です。後藤さんは、お鮎子を2本3本と最高潮でした。その後、一風呂浴びて、中の湯をあとにしました。今回、中の湯では、閑散期ということも相まって、値段、部屋、サービスともに最高でした。ベストチョイスだったと思います。加藤さんを始め、幹事の皆さんありがとうございました。

実は、今回の山行には、落ちがあります。当初、焼岳に上る予定だったのですが、実際は、安房山に登っていました。暗い内のルートファイティングは難しいです。



皆で滑ると楽しいね いい尾根が続く



揃ってパチリ 斉藤さん撮影



加藤姉御



三浦さん

